

3 - 23 伊豆諸島付近の海底地形・地質構造・地磁気全磁力

Submarine Topography, Geological Structure, and Geomagnetic Total Force in the Vicinity of Izu-Islands

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和 53 年 4 月から 5 月にかけて実施した、1 / 20 万海底調査の成果概要を報告する。この海域は、伊豆小笠原海溝に沿った、いわゆる七島－硫黄島海嶺の北部にあたる。

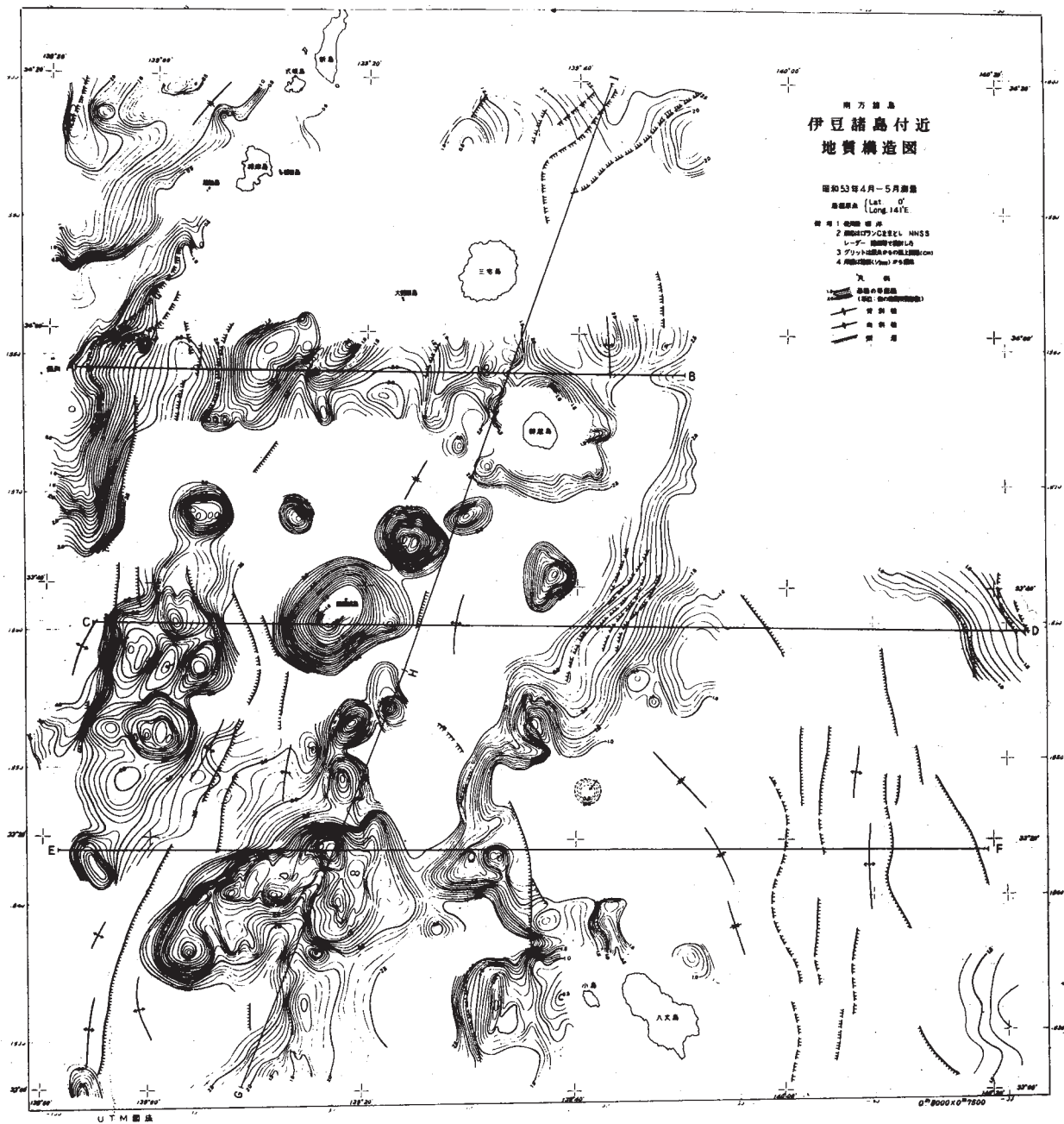
海底地形（第 1 図） 三宅・御蔵・八丈等の各島が形成する海嶺頂部を境にして、東側の地形は比較的緩やかであり、西側は、多くの海山・海丘や銭州海嶺があり、起伏に富んでいる。御蔵・八丈島間には、明瞭なカルデラ状の山体が見られ、火山帯のフロントを構成している。三宅島北方及び、御蔵島と先のカルデラ間には海底谷があり、北または北東方向に下刻する。

地質構造（第 2 図） 断層の一般走向は北または北北東、及び北北西を示し、七島－硫黄島海嶺方向の大構造や、海嶺北部の雁行構造、銭州海嶺等の構造方向と交差している。これらの断層系が切っている地層は、第四系と考えている。

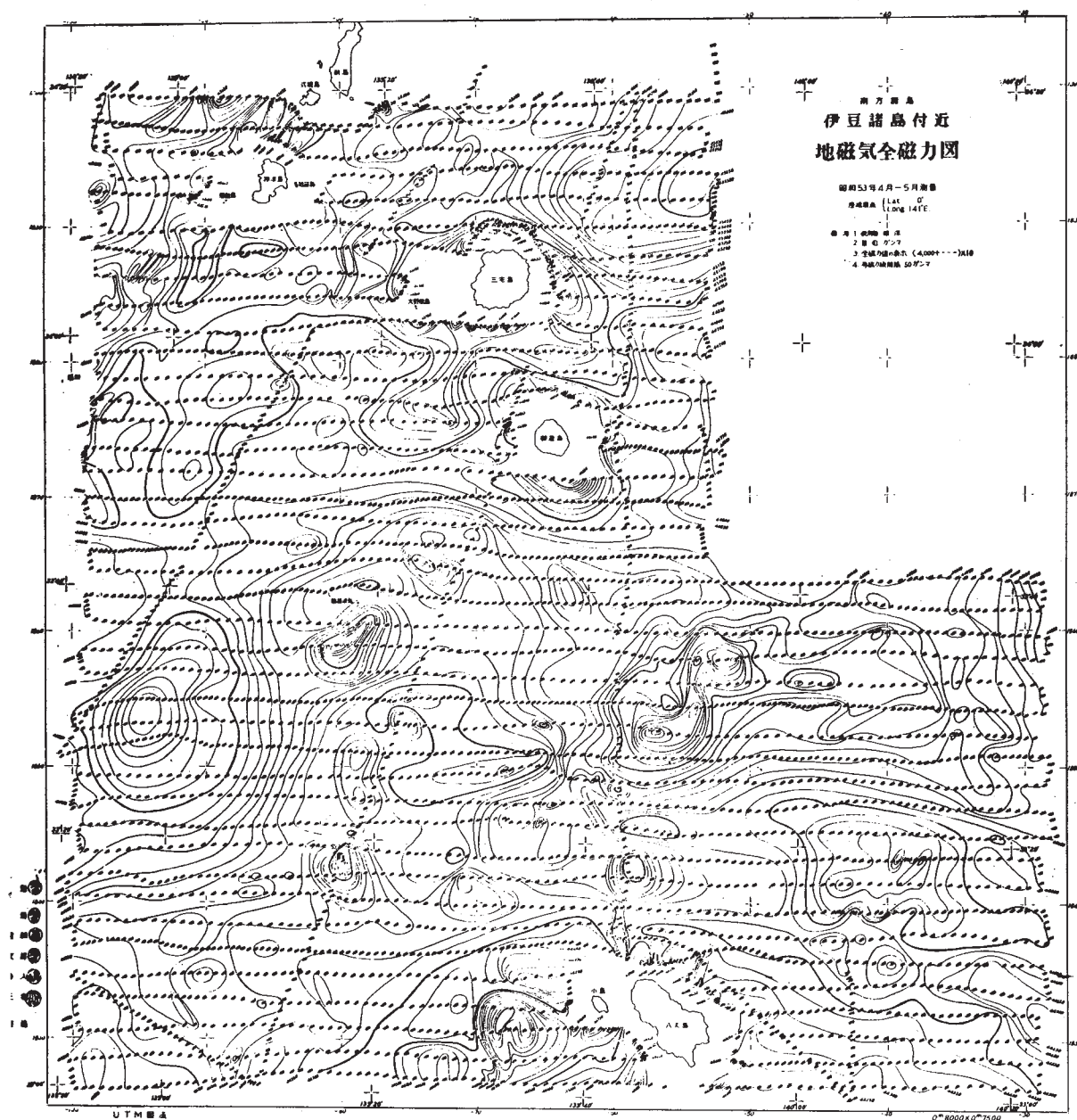
地磁気全磁力分布（第 3 図） 島や海山等に伴う正のダイポール状磁場がみられ、測量区域を第 4 紀後半以降の安山岩等が広くおおっている事を示す。

八丈島北方の黒瀬堆と、その東の新黒瀬堆付近は、最浅部水深が 150m 以浅で、きわめて浅いにもかかわらず、顕著な地磁気異常がなく、この付近では石灰岩がドレヅギされている。また黒瀬堆の海山はカルデラ類似の地形であるが、これら両堆は周辺の安山岩系の海底より古く、酸性火成岩上に石灰質の堆積層をのせているものと考えられる。

（茂木昭夫・大島章一）



第2図 伊豆諸島付近 地質構造図
Fig. 2 Submarine geological structure chart.



第3図 伊豆諸島付近 地磁気全磁力図

Fig. 3 Geomagnetic total force.